

誰もが抱える悩みを。ハッと解決！



早稲田アカデミー
教育事業第二本部副部長
福田 貴一

福田貴一先生の 福が来るアドバイス

子どもの言葉の裏にある心理

「あれ？〇〇くん、宿題が出てないぞ」「えっ？さっ
き出したはず……」。小学3年生の授業前の一幕です。宿
題は授業前に教卓に置くルールなのですが、〇〇くんの
ノートはありません。「確かに置いた？もう一度力パン
を確認してごらん」「ない……。さっきちゃんと机の上に
置いたんだけど……。」。そんな会話が続きました。今回は、
こういった子どもの言葉に隠された心理について考えます。

「叱られたくない気持ち」から出る言葉

実は、小学生の場合、こういったことはよくあ
るのです。結局〇〇くんの宿題は見つからず、
そこからはあまり深く追及せずに「もし見つ
かったら今度持っておいで」と話して授業を開
始しました。授業後にお母様からお電話でわか
ったのですが、彼の宿題ノートは家にありま
した。電話越しに「ごめんさい」と言う〇〇
くんに「見つかって良かったね。今度の授業で
持っておいで」と話すと、「うんー」と答え、
次の授業できちんと提出してくれました。
彼が「机の上に置いた」と言ったのはなぜで
しょう。もちろん、以前に提出したときの記憶
と混同して、本当に提出したと思っていた、と
いう可能性はあります。ただ、聞かれたときに

とっさに出したはず」と言ってしまった、とい
う可能性の方が高いでしょう。その場合、意識
的か無意識かは別にして、ある種の自己保身的
な気持ちから出た言葉、と考えることができます。

叱られることが好きな子どもはいません。で
すから、叱られそうな場面で自己保身的な意識
が働くのは普通のことです。精神的な成長が進
めば、「ノートを忘れたこと」より「嘘をつく
こと」の方が良くないと理解できるようになり
ますし、何より「嘘をついてもばれること」を
知ります。しかし、まだ成長の途中にある小学
生の場合には、「今叱られること」を避けるために、
とっさに嘘が口をついて出てしまうことがある
のです。「嘘をついた」と深く追及したり強く
責めたりするのは避けた方が良い場合もあるは
ずです。

「事実を隠す」言葉

小学生の場合、自己保身的な言動として「事
実と違うことを言う＝嘘をつく」という場合の
他に、「一部の事実しか言わない＝事実を隠す」
というケースもあります。特に友人関係のトラ
ブルなどの場合には、よくあるケースです。例
えば、「△△くんからイヤなことをされた」と
いう相談を受けることがあります。言葉のなか
に、「だから△△くんを叱ってほしい」という
思いが込められた相談です。ただ小学生同士の
トラブルの場合、その要因が片方だけにある場
合は多くありません。もちろん、どちらかが一
方的に攻撃をしてしまう、ということもあると
思いますが、それよりもお互いのさまざまな行
動の結果として「感情的なもつれ」が生まれ

いる方が多いのです。

「その場しのぎ」の言葉

「叱られたくない」「早く許してもらいたい」
という意識のなかで、本当は思ってもいない「そ
の場しのぎ」の言葉が口から出てしまった
という経験を、保護者の皆様もお持ちなので
ないでしょうか。

塾がある日に友達と遊ぶ約束をしてしまい、
お母様には塾に行くと言って、友達と公園で遊
んでいた生徒がいました。早稲田アカデミーか
らの欠席連絡でお子様を塾へ行っていないこと
を知ったお母様がお子様を公園で見つけ、校舎
に連れていらっしました。私も一緒にお話

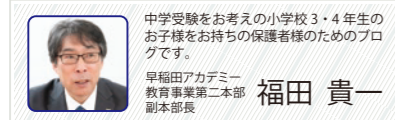
言葉の裏にある「不安」を理解する

しさせていたのですが、厳しく叱るお母
様に対して、お子様は「もう二度と友達とは遊
ばない」と言い出しました。お母様はその言葉
を受けて「それをちゃんと約束しなさい！」と
おっしゃったのですが、私はお止めしました。
小学生にとって、友達と遊ぶ時間はかけがえの
ないものはずです。もちろんそのお子様も、
本当に友達と遊ぶことをやめていいと思ってい
たわけではないでしょう。ただ、その瞬間は「も
うこれ以上叱られたくない」という思いから、
さらには「悪いことをした」という反省の思い
から、極端なことを言い出してしまったのだと
思います。このような「その場しのぎ」の言葉
をそのまま受け止めてしまうと、お子様を「ま
た約束を破った」「嘘をついた」という状況に
追い込んでしまうこともあるのです。



「その場しのぎの言葉」にしても「自己保身的
な嘘」にしても、その背景にあるのは「お子
様がまだ精神的な成長の途中にある」というこ
とです。もう少し「大人」になれば、「すべ
れる嘘」をついたり、「できるはずのない約束」
をしたりすることはなくなるでしょう。嘘やそ
の場しのぎの約束の「先」が見えるようになっ
てくるからです。ただ、叱られることに対して
強い怖れや不安感を持っている場合、嘘をつい
たりその場しのぎのことを言ったりする「くせ」
からなかなか脱することができないでしょう。

そもそも、嘘やごまかしの背景には、不安があ
ります。その不安が大きいお子様ほど、そいつ
た「くせ」から抜け出すのに時間がかかるので
す。
保護者の皆様には、「お子様に安心感を与え
る」ということにご留意いただきたいと思いま
す。ここでいう「安心」とは、「悪いことをし
ても叱られない」ということではなく、「叱ら
れるけれど、それでも自分を受け入れてくれる
はずだ」という意識です。「自分は認められて
いる」という自己肯定感につながる安心ともい
えるでしょう。
「子どもに嘘をつかせるのは大人の責任」と
いう言葉を聞いたことがあります。お子様の発
言に何か違和感があったときには、その背景に
あるお子様の気持ちを理解し、受け止めてあげ
ることも必要だと考えています。



中学受験に関するブログを公開しています。
このブログでは、学習計画の立て方、やる気
の引き出し方、テストの成績の見方、学校情報
など、中学入試に関するさまざまなことにつ
いて書いています。

詳細はWebをご確認ください。
早稲田アカデミー 検索



左の二次元
コードを
読み込んで
ご確認ください
スマートフォンのお使い